

八潮市教育委員会・八潮市立潮止小学校

本時では、各自で設定した課題に向けて、教科書・解説動画を駆使して個人で学びを進めたり、他者と協働して学びを進めたりしました。理解度を確かめるための「到達度テスト」や習熟度に応じたワークシートを用紙するなど学習材を工夫することで、生徒一人一人が必要な学び方を考え、選択し、一生懸命学習に取り組むことができました。なお、本市では、単元内自由進度型学習は、部会で試行的に実施している段階です。

本校が考える算数科の「個別最適な学び」と「協働的な学び」

	本校の解釈	国の方針
指導の個別化	共通の目標に向かって、児童が自ら最適だと考える方法で課題解決を図る。（自己選択）	共通の目標があり、自分に合ったペースで学習する。
学習の個性化	児童が自分で決める要素を多くする。（自己決定）	自分で目標や学び方を決める。
協働的な学び	他者と学ぶ 他者から学ぶ。	他者の力を借りて、自分や集団の力を高める。

各教科の中で「指導の個別化」と「学習の個性化」の考え方を明確にわけけるために・・・

指導の
個別化

- ・児童が多様な方法で課題解決に向かえるよう、「自己決定」できる要素を教師が提供する。
- ・児童にあえて「困り感」を与え、学習への意欲を引き出すとともに思考の幅を広げる。

学習の
個性化

具体的な事例(第1学年:算数・どちらがおおい?)

◎目 標 身の回りにあるものの体積を、間接比較で比べられる理由を考え、説明することができる。
【思考力、判断力、表現力等】

つかむ
見通す

(直接比較で比べられない場合・・・)
水のりょうをくらべるには、どうすればよいのだろうか?

- ・べつの入れものにいれればよいかもしれない。



児童が思考する余地を残す!

考える



様々な種類の入れ物を準備し、どれを使えば比べられるのかを考える。

【学習の個性化】

- ・児童が自分たちの考えをもとに容器を選び、間接比較で水の量を比較できるようにする。



教師が適度に関わりながら、児童は失敗を繰り返し正しい方法を発見できるようにする。

【協働的な学び】

- ・グループで意見を出し合って、様々な方法を試しながら、正しい比べ方を発見する。



同じ容器で比べればよい!



どの種類の入れ物を使っても、結果は同じになることを確かめる。

「統合的に考える」=算数科のキーワード!

深める

まとめる

(直接比較で比べられない場合・・・)
水のりょうをくらべるには、おなじ大きさの入れものを使えばよい。

八潮スタンダードの流れ